

合併の財政効果が年々縮小 バイオ研究補助金は継続できない

平成29年度決算は、平成大合併の矛盾を拡大してきた12年間の決算でもありません。

旧町村の衰退は誰の目にも明らかで、皆川市長の選挙公約である、旧町村へのまちづくり

未来基金の創設や、自立分散型まちづくりに旧町村の住民が大きな期待を寄せたのは当然です。

国が進める平成大合併は「道州制の導入」を目的に人口1万人未

満の町村を消滅させて、基礎自治体を1000にまで減らす目標で進められましたが、失敗に終わりました。

鶴岡市の特別な理由

合併を進めた鶴岡市の特別な理由は、應先大学先端生命科学研究

所に対する補助金支出がありました。

研究補助金は最初の4年間（平成13～16年度）は、市と県で毎年2億9千万円、平成17年度は1億5千万円で

した。それが市町村合併の翌年18年度から市と県で7億円に膨らんだのです。

鶴岡市の3億5千万円の負担は旧鶴岡市単独では不可能な額です。鶴岡市は何としても

周辺町村を、旧羽黒町の町長専決処分を使っても、合併させなければならぬ特別な理由があったのです。

しかし、合併の財政効果は10年間までで、その後段階的に縮小します。

28年度から交付税の削減が始まり、段階的

削減額は28年度2億円、29年度6億円、30年度は9億円の減額に達し、今後さらに一本算定となる33年度まで拡大します。

交付税が激減するもとで、もはや市民の暮らしを犠牲にして、今まで通り3億5千万円もの研究補助金の支出を続けることはできません。

バイオ研究の意義や、研究所が鶴岡に存在する価値があります。

しかし、バイオ研究の成果は人類と自然科学の進歩に貢献するものであり、研究補助金は本来、国の予算や研究成果を活用する企業などに負担を求めていくべきです。

（9月議会本会議での加藤鉦一議員の決算反対討論から）

寒露

寒露

城貞（藤の花）

昊天涼冷快晴疎

昊天 涼冷 快晴 疎なり

閑看停雲念有余

閑かに停雲を看て念い余り有り

聞説満条甘柿熟

聞説 条に満つ甘柿 熟すと

菊花時節摘園蔬

菊花の時節 園蔬を摘む

ひやかな、秋の天空がすっかり、晴れわたることはまれになったしずかに秋の空を眺めていると、さまざまに思いに、胸があふれる聞くとところによると、枝に一杯なっている甘い柿が、食べられるようになったと菊花が咲き始めて、畑の野菜も収穫する時になった（寒露：10月8日～9日）

【絵を描く】 繰り返してはならない

加藤貞雄（山王町／上平形出身）

昭和16年12月8日の朝、小学3年の私がラジオから流れる真珠湾攻撃の放送を聞いたときの記憶が臆気ながら残っている。

それから4年間、時の政府は国民を欺き続けた。幾多の戦いの悲劇が隠蔽され、「全滅」が「玉碎」に、「戦死者」が「軍神」に美化された。大本営の報道はいつも「連戦連勝」とか、「被害は僅少なり」であった。

「大和魂」や「神風」などの言葉で国民を煽り、志願という強制命令で多くの若者を戦場に駆り出した。皇居前広場で戦場に向かう若き学徒たちの行進の映像を見る度に涙を堪えられない。壇上には、「生きて虜囚の辱めを受けず」と訓示する東条英機（首相）の姿があった。

昭和20年8月15日、無条件降伏で戦争は終わった。犠牲になった日本の兵隊と民間人は310万人を越え、東南アジア諸国を含めると犠牲者の数は2千万人以上と言われる。

私の2人の兄も戦死した。3番目の兄は酷寒のシベリアに4年間抑留された後、生きて帰ってきた。2人の息子を亡くして悲しむ母の姿を思い出すと胸が締め付けられる。

「安らかに眠って下さい。過ちは繰返しませぬから」（広島原爆慰霊碑）

この戦争の反省から生まれたのが憲法九条である。戦後73年間、国民の力でそれを守って今日まで平和が保たれてきた。

しかし今、安倍首相は「憲法九条の改定をなんとしてもやる、次の臨時国会に改憲案を提出する」と公言した。再び戦争のできる国に戻そうとしている。

あの悲劇を再び繰り返してはならない。みんなで声を大にして憲法九条を守っていきたい。安倍改憲反対の3千万署名をさらに大きく広げていきたい。

※絵は兄がシベリア抑留から持ち帰った防寒服、靴、飯盒、脚絆の実物を写生したもの



「おあい船」

いま「おあい船」を知っている日本人は何人いるでしょうか。おあいおわい。汚穢。昔は、人のふん尿をくみ取って田畑の肥料にする以外は、「おあい船」に積み込んで川や海に流し捨てていた。

週刊新潮「麦見自在」

を読む機会があり、西行が手水を使いながら「願わくは花の下にて春死なん」と詠んでいた頃、パリのセーヌ川の岸辺で生活していた人たちは、トイレの概念を全く持っていなかった。食事は手掴み、トイレは生ゴミと一緒にセーヌ川に放り込んでいた。

流れは淀み腐臭が辺りを覆った。

ルイ6世の王子フィリップが馬を走らせ、屠殺場から逃げ出した牝豚とぶつかり落馬して、ぬかんだ汚泥に顔から突っ込んで窒息死した。「豚に殺された王子」

それから800年経ったとき、街をきれいにしようと思つた政治家がやつと現れた。ナポレオンの甥のナポレオン3世である。

パリの3分の1を占拠していた貧民街を撤去し、凱旋門を中心に12本の人通りを走らせ、600kmもの下水道を造り市民にトイレの設置を義務づけた。

これでセーヌ川はきれいになったか。そうはならなかった。下水道の先はそのままセー

ヌ川に放流された。

フランス政府はセーヌ川をきれいにするため、植民地に多額の税金をかけ、アヘン売買の利益を投入し、下水道は更に伸びた。

太平洋戦争で日本は仏印・フランス領インドシナ（現在のベトナム・カンボジア・ラオス）を占領し、フランスへの納税をすべて停止した。

日本敗戦で、フランスは戻ってきた。

ド・ゴールは再び税金を課けたが、セーヌ川の浄化には回さなかった。栄光の復活に、まず核実験を選んだ。

今、パリには30万本の下水管が走り、9割は汚水処理場できれいになっているが、残りは未処理のままセーヌ川に流れているという。

藤島から鶴岡・大宝寺へ入る右側に太田産商（株）が建っている。旧鶴岡市屠場で、昭和

の初めは七窪にあった。私の父・成澤武雄は庄内農業高校の教師のままハム・ソーセージの製造を開始した昭和9年9月、工場兼住宅が三日町にあり、屠場から製品を運ぶには距離が遠すぎるので、当時の熊田周八市長と直接交渉し、屠場移転を実現した。

屠場から出る血液や汚水を、内川に流すと考えたかどうか？

今、我が国では原発から生じる放射性物質トリチウム処理問題があり、櫻井よしこは「海に放出しても人間に害はない」と言っている。海の魚、海藻、塩を、人は平気で口に入れている。：



「海を汚すな」と訴える人たちの前で、正門国会会館

だまされては遺憾！ 無謀・無惨なアジア太平洋戦争 ① 死者9割は末期1年の絶望時期に

青山崇



昨年12月に発行された『日本軍兵士―アジア・太平洋戦争の現実』(吉田裕)が読まれている。山形市立図書館では予約者が4人もいる。

かった。同じ職場のS先生も「戦争のことは一切話さないぞ」と固く口を締めた。

15年の長期にわたった戦争を、攻勢の1期、連合国反抗と日本対峙の2期、日本守勢の3期、絶望的抗戦の4期に分ける。

4期は1944(昭和19)年8月(グアム島日本軍全滅から)1945年8月の敗戦に至る時期で、すでに敗戦必死の状況でありながら、「もう少し戦果を上げよう」という天



たすけあいの会

先日藤島こーぷ委員会(代表 古川昭子氏)で、鶴岡生協地域で行われている「たすけあいの会」を学習した。

これは、購買・医療・高齢の各生協と社会福祉法人虹の会の四団体が協力して、安心してくらし続けられる地域づくりをめざし、会員同士でくらしを支え合うことを目的に取り組んでいるものだこの事。

▲会員同士で支え合うとは、援助を受けた利用会員と援助をする活動会員、財政的に支える援助会員とで組み上がった組織を購買生協で事務局を担当。

▲利用したい人は年会費1000円で会員になり、1時間650円(利用券)とガソリン代(キロ20円)で、活動会員から家事援助・話し相手・犬の散歩や通院介助に草むしりな

皇のことばなどもあつて戦争を続けた。この時期の死者は全体の9割に及ぶというまさに絶望的時期である。

しかし当時は、「神風が吹く」などとも言われ、一般国民は絶望的とは思わなかった。

全体の日本人死者は、民間人80万人、軍人・軍属230万人、合わせて310万人とされている。

民間人は、沖繩戦、空襲などによるもの、軍属は軍に雇われた民間人である。

どをしてもらおう。身体障害者や要介護認定などを受けている方の通院の送迎・院内介助、人工透析の送迎や付き添い・買い物支援やまとめ買いは、特別の許可を取って対応しているとの事。

▲介護保険利用ではしてくれない仕事でも自分が金を出すこつちの会は、ゴミ出し・洗濯・買い物に掃除も大丈夫。こんな便利な仕組みを知らない人が多いのではないかと思った。

▲車を利用する通院の送迎は37人、週2〜3回の人口透析やまとめ買い・スーパーに一緒に行く買い物支援も11人が利用しているとの事。藤島では、10人近い利用者から喜ばれているとの事でした。

▲バスの往復が日に3本の藤島。買い物や通院には便利だと思つたんです。詳しく知りたい方は25〜9980へ電話を。(石川)